4月15日（水曜日）「ダビデ（7）主の秩序に従う」

【新改訳 2017】

Ⅰサムエル記24•1ー22

「彼は部下に言った。『私が、主に逆らって、主に油そそがれた方、わたしの主君に対して、そのようなことをして、手を下すなど、主の前に絶対にできないことだ。彼（サウル）は主に油そそがれた方だから』」（6節）

サウル王は、ダビデがエン•ゲディの荒野にいると聞いて、三千人の精鋭を連れて探しに出かけました。通りがかりの洞穴に入って用をたしたのですが、その穴の奥にダビデと部下たちが隠れていたのです。まことにスリリングな場面でした。

部下たちが、今こそサウルを討ち取る時であると進言しましたが、冒頭のことばのようにダビデは、サウルは主から油そそがれた（叙任された）王であるから手を下してはならないと、行動を慎んだのでした。このことを直後に知らされたサウルは、感動に涙して彼に詫びています（16節）。

主の秩序を独善的に犯して退けられたサウルと、それを守り通して主に従ったダビデとの違いを覚えます。

～祈り～

主よ。あなたの秩序をよく知り、それに従って祝福されるものとしてください。

【学びのために】

この箇所から、たとえ牧師が間違っていても、信徒は神に立てられた人には絶対に服従すべきである、などとは言えません。ダビデは自発的に、神を恐れる信仰からサウルを立てたのであり、彼の間違いに従ったのではありません。